

経営理念：利用者『最善の利益』を図り、地域の福祉に貢献する

保育の方針 1. 子どもの人格・人権を尊重し、一人ひとりの思いを大切にします 2. 子どもの発達に即した援助・保育をします

3. 子どもが安心して過ごせる生活の場にします

保育目標 ◆じょうぶな身体（健康）◆たしかな考え（理性・認識）◆ゆたかな心（感性・情緒）◆よき仲間（協調性・社会性）

かもしか年中児クラス便り

令和5年11月21日（火）

文責：山神 寿江

11月も残すところ10日ほど。今年もあと1か月となりました、月日の早さを実感します。最近急な寒さに冬の訪れを感じます。登園の際はネックウォーマーや手袋、ダウン系の上着などきている子どもたちも登園後園庭に出て体を動かすことで「暑くなってきた」と1枚ずつ体感し、衣服の調節をしています。ヒーターなどの暖房器具を使うことは簡単ですが、可能な限り、どのように過ごすと温くなるかなどと考え、実践することで元気に寒さを乗り切っていきたいです。

野稲に挑戦～日々の当たり前に感謝～

今年度も昨年度に引き続き野稲に挑戦しました。お米の苗は榎並先生宅に分けていただき、自分たちで畑に植えることから挑戦。畑に行くたびに「大きくなっているよ」「お米が出来ている」「色が変わってきている」と6月に野稲をしてから観察し、お米の成長を見てきた子どもたち。「カラスさん食べてないかな？」や、畑に何かしらの足跡があると「いのししの仕業じゃない？」と時に心配しながら観察を行ってきました。11月に入り脱穀をしました。まずは稲を刈り、干します。稲刈りでは初めてのカマにも挑戦しました。一緒に取り組んでいきます。数日干した後は昔ならではの脱穀機で脱穀していきます。一緒に脱穀機に挑戦したり、お米の穂を一粒ずつ手で取っていきます。その作業がとても大変で「食べられるようになるまで大変だね」「もういやだ」などと弱音を吐く子供たちの姿も見られましたが、みんなでおにぎりパーティーをしよう！を目標に「僕は鮭のおにぎりが好き」「大きいおにぎりが食べたい」とおにぎりをイメージしながら、またこどもたちのやる気もみなぎり、再びスピードアップ。みんなで協力することで5キロのお米を収穫することができました。大人の私たちでも一つ一つの手作業は本当に大変で時代の進化、機械のありがたさを改めて感じました。今では当たり前に行えることのできるお米。しかし、あることがあたりまえではないこと、食べれるようになるまでにはたくさんの方の力が必要なことなど、普段の当たり前に感謝し、食べる喜び、食の大切さ、命をいただく感謝の気持ちを忘れることなく過ごすことのできるようにと思っています。近々精米をし、みんなでおにぎりパーティーを計画しています。またその様子を12月の子育て学習会の時に野稲や稲刈り、脱穀などの写真を展示したいと計画していますので、楽しみされてみてください。

<お知らせ・お願い>

- ・週末に靴を持ち帰ります。靴を入れる袋を持たせてください。
- ・寒さを感じる日が増えてきました掛け布団の準備をお願いいたします。
- ・11月30日に内科検診・12月1日に歯科検診が14時からあります。
- ・11月24日はクッキングです。エプロン・三角巾・マスクの準備をお願い致します。また爪の伸びている子どももいますので、ご確認ください。



苦情・相談解決制度 本園の保育や処遇等に意見・要望がありましたら、ご遠慮なく申し出て下さい。

受付担当者 主幹保育教諭 榎並 理恵 解決 責任者 園長 中根 賢誠

第三者委員 丸田 瑞穂 (099-482-2927) 横峯 友里子 (099-474-1851) 山口 和美 (090-5473-5866)

